

### BCP訓練を実施

平時からの準備  
・訓練が肝要に  
日本道路

日本道路は、東日本大震災から10年目を迎える11日に、南海トラフ地震



を想定したBCP（事業継続計画）訓練を実施し、本社および全支店の80人が参加したII写真。

新型コロナウイルス感染症対策のため対策本部の規模を縮小して実施した訓練は、発災直後の従業員の安否確認・事業所

等の被害状況報告訓練と発災2日後を想定した被災支店の事業再開に向けた支援訓練の2部構成とした。

南海トラフ地震では、被災地域が広域にわたると想定されるため、非被災地域からの迅速かつ的確な支援が必要となる。そこで、従業員が発信した情報や各支店の対策本部が集約した情報を確実に全社で共有するために、従来のパソコンを使用したテレビ会議システムだけでなく、スマートフォンやタブレット端

末、MCA無線等さまざまなデバイスを活用した情報共有訓練とした。

訓練後の講評で、久松博三社長は「震災対策を有効に機能させるには、新型コロナウイルス感染症対策同様、会社としての指針を徹底し、関係各所と連携することが重要な要因となる。また、東日本大震災の教訓として、従業員の家族を含む安否を早期に明らかにすることが第一である」と述べ、平時から従業員全員が準備・訓練しておくことが肝要と訴えた。